

深川社協だより「ふかわ」の
創刊五十号によせて

深川社協だより「ふかわ」の創刊号は平成五年八月に発行されました。それから今年が二五年目、ちょうど五〇号になりました。そこで過去の広報紙から、深川社協がたってきた役割の一端をのぞいてみました。

【第四号】(平成七年)には高齢者の方を対象にした「さくらの会」という会をつくり、会食やお花見会などをやっていますと紹介されています。敬老会の記事も取り上げられています。同じ号には、七五歳以上二八四名に招待状を出し、敬老会への参加は一三五名であったとあります。ちなみに昨年(平成二九年)の深川地区の七五歳以上の方は九〇三名でした。

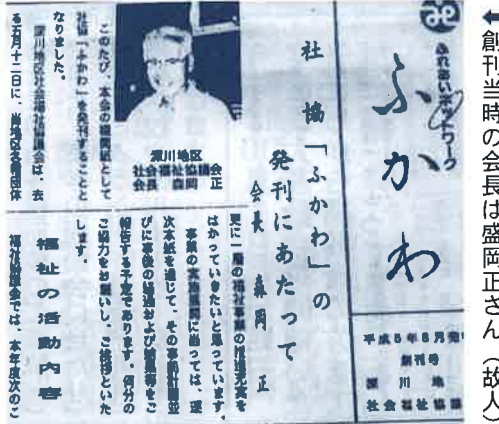
【第一四号】(平成一一年)には家庭、地域、学校の三者の協力から平成八年から十年の三年間にわたり深川小学校が福祉教育研究指定校を受け実践が進められることになったとあります。子ども達と一緒にコマ作りを体験学習した様子が載っています。これは現在も継続されていることですね。

「子ども一〇番の家」についての準備、スタートの記事は【第二〇号】(平成一〇年)に載っています。地域ぐるみで子どもを守ろうという意識が感じられます。

「いつ頃からか、どこからともなく全国的に普及してきた高齢者向けのスポーツである……」という書き出しで始まるゲートボールの紹介は上庄地区の方が書いておられます。【第一二号】(平成一〇年)

「介護保険制度とは」と題して、高陽商工会

←創刊当時の会長は盛岡正さん(故人)



館のホールで研修会を持ち、一〇〇名を超える参加者があったとして、その必要性や保険の支払い方法等が記事にされています。【第一四号】(平成一一年)

「ふれあいいきいきサロンの開設について」の記事は【第一七号】(平成一三年)、準備にかける社協の意気込みが感じられます。

【第三五号】(平成二二年)には防災・福祉のマニュアル・マップ「生活安心マップ」の作成と各家庭への配布の紹介が載っています。避難場所の確認や非常持出し品のこと、日ごろから緊急事態に備えることの大切さが説明されています。さらなる有効活用が求められます。

【第三八号】(平成二四年)には「JR中深川駅ホームの高上げについて」の記事があります。SL時代のホームが、ディーゼル車となり対応できなくなり、段差や隙間が大きく非常に危険である。高齢化社会を迎える今、また生徒もたくさん利用する中深川駅のホーム改修工事の要望と改修の経緯が紹介されています。

地域の皆様に支えられ、福祉の町づくりに向けた社協の力強い歩みの様子をあらためて感じました。

深川地区社協広報担当 山口悦朗

ありじどのわが町ふかわ
一枚の写真

今ではすっかり忘れられた、ひと昔前の深川の風景や風物を写真でご紹介するコーナーです。皆様からの写真提供をお待ちしております。

深川の町にバスが走り出した頃のこと覚えていらっしゃいますか。

写真は昭和二十九年頃、深川を走るボンネットバスの写真です。提供して下さったのは石田博行氏(深川五丁目在住)。石田さんが中学生の頃に撮影されたものだそうです。バスは広島駅行きで、芸備線の踏切りを渡って現在の西塚の旧道に入るところです。当時を知る人にとっては懐かしい風景ではないでしょうか。



このバスは「山佐バス」といい、昭和二十五年に「山佐株式会社」として設立され(社名は山県郡と安佐郡に由来)、その後「広島郊外バス」に改称、昭和三十九年に「広島交通株式会社」に社名変更して現在に到っています。

深川社協だより
ふかわ
第50号
2018.1.25
編集発行 深川地区社会福祉協議会広報部会 ■ 発行人 向井文武



さわやかな平成三十年の元旦を迎えました(亀崎神社にて)

「ふれあいセンターふかわ」開設にあたり
「地域テーマ募金の協力」のお願い
皆様にはお元気に新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。今年が健やかで平穏な幸の多い良い年でありませうとお祈り申し上げます。

さて今年には念願でありました深川地区に、高陽公民館、市、区社協の協力により、地域福祉活動の拠点として高陽公民館の未使用場所(ポイラー室)を借用して「ふれあいセンターふかわ」を開設することになりました。

つきましては、拠点設置整備に必要な資金調達に「赤い羽共同募金」地域テーマ募金を利用して、募金活動を行いますので地域福祉向上のため募金のご協力をよろしくお願い申し上げます。

拠点整備事業総予算二百三十万円が必要となり
広島市社協より百万円
安佐北区社協より十萬円の助成を受け
※地域テーマ募金として地域の皆様から六十萬円を募金して頂き
ますと広島県共同募金会から百二十萬円の助成が受けられます。
地域テーマ募金は広島県共同募金会が地域を原点とした多様な活動
をこれまで以上に育成し活性化させ、地域における「新たな支
え合い」を確立する取組みとして、各市・区・町の社会福祉協議
会等の運営のもと「持続可能な地域づくり」の実現を目的として
展開されています。

社会福祉協議会は、国、県、市が管轄する役所のような公的立場
でなく民間レベルで住民福祉を推進していくことを目的につく
られた住民主体の自主的な任意団体です。

深川地区社協は、共同募金会などの助成金や自治会連合会からの
助成、香典返しや見舞返しなどの寄付金を財源に運営しており
「皆で助け合い支え合い」の基で結成された団体です。

【2に続く】

深川地区社会福祉協議会
会長 向井文武



2017/10/01

深川学区民大運動会について

深川学区体育協会
会長 増井美穂

明けましておめでとございます。
当初はスポーツレクリエーションの楽しさの場としてスタートした深川学区の運動会は、今年で42回を迎えます。昨年度の運動会は天候に恵まれ、小さなお子さんから諸先輩まで、千人以上の学区民が心地よい汗を流して頂きました。

高陽町民運動会から、独自の深川町民運動会として開催されたのは昭和52年の10月でした。その当時の深川住民も今と比べれば半分にも満たず、運動会の参加者もこじんまりとしたものでした。
その反面、娯楽も限られていた時代、住民あげての家庭的なスポーツ活動行事だったそうです。競技種目も「パン喰い競争」や「自転車のリム廻し」また「親子三代リレー」に「仮装行列」まで。特に地区対抗の仮装行列では、数日前から各地区住民が集まっては、演題から出演者の選考に仮装の準備。大変な苦労もあったことでしょうけど、その苦労以上に楽しみや面白味もあったことでしょう。
それ以後、間もなく深川台地区が加わり、深川の住民増加と共に運動会の規模も拡大しました。会場も狭くなったことから小学校から現在の高陽中学校グラウンドに移ったのが第32回の平成20年10月でした。
現在は9地区対抗戦の運動会になっていますが、勝ち負けを超えて深川の皆様が一同に集い、健康で明るい町づくりを目標としたふれあいのスポーツイベントです。
これだけの学区民運動会を長年続けることが出来るのは、体協役員や参加者はもちろんのこと深川各自治会をはじめ各種団体のご理解とご協力のたまものです。また、毎年の運動会に当たりご支援を頂いている地元企業、ランドや備品借用でご協力をおしまない高陽中学校や深川小学校、関係者の皆様には深く感謝申し上げます。

今年10月7日(日曜日)に第43回深川学区民大運動会を開催いたします。
子どもから高齢者の方まで、幅広い世代が一緒になって気軽に参加してください。

深川学区体育協会

「より続く」

拠点整備開設の目的(福祉機能の強化)

誰もが安心して安全に住み暮らせる地域づくりには、福祉活動の拠点が必要と思えます。拠点は、まず事務所作業機能を充実し、地域住民の誰もが気軽に自由に入出りし、話し合い、住民の声、情報が集まる発信伝達場所、困りごとを抱えた方の問題解決のための適切な関係機関へ繋げる相談窓口、少人数での会議の場、広報作成や情報発信、ボランティア登録や派遣、車椅子の短期貸し出し窓口等々、また地域諸団体の事務作業も行う共同活動場所として設置したいと思えますのでご協力よろしくお願いいたします。

みつば会(西塚・中郷・院内)

九十歳を超えてからも
「いきいき百歳体操」

いきいき
サロン
便り

「みつば会」は毎月第3木曜日に開催しています。
11月22日(火)は地域包括支援センターの職員の方2名をお招きして、元気でいきいきとした生活を送る為に体力づくりを目的として、百歳体操を指導していただきました。「がんばれカーブひろしま百歳体操」のDVDをみながら、椅子に座って、腕を前に上げたり、横に上げる運動、膝を伸ばす運動、脚を後ろに上げたり横に上げる運動等しました。またオモリ(ウエイトバンド)を使ってゆっくりとした動きの筋力体操もしました。
みんな一生懸命に声を出して楽しんで運動をされていました。「アー疲れた」「アー汗をかいた」と、心地よい一声、体操をすいつまでも元気で笑顔で過ごしましょう。
皆様との深い絆を結ぶ為にご参加をお待ちしております。

民生委員児童委員 荒川忠臣



いきいき百歳体操は椅子に腰をかける準備運動・筋力運動・整理体操の三つをします

「いきいき百歳体操」とは?

- 週1~2回、約30分がいい
- イスに腰掛けて行うので安心
- 難しい動作なし!誰でもできる
- ゆっくりの動作なので、関節を痛めにくい

現在深川地区では
◆深川集会所健康体操教室
会場 深川集会所(2丁目)
◆スマイフ
会場 陰地集会所(7丁目)
の2ヶ所にて開催中!
詳しくは、高陽・亀崎・落合地域包括支援センターまでお問合せ下さい

地域での女性会活動

深川女性会

会長 中川英子

深川女性会は地域とくらしに根ざした女性団体として環境、福祉、子育て支援、防災・地域活性化に取組んでいます。また女性の教養と生活向上に努めることを目的としています。
その中の活動の一端を紹介します。
月一回の町内の介護施設へ訪問し室内ゲートボールを在園者の皆さんと楽しんでいます。少しお体が不自由な方も車椅子で器用に移動しながらプレーされます。その後、輪になり昔なつかしい唱歌、童謡をうたいます。皆さん毎月楽しみにして下さっています。
これからも地域の方とのふれあいを大切に、地域に必要とされる女性会でありたいと思っています。

まだ、女性会に加入されていない方
ご入会をお待ちしております
一緒に活動しましょう!



女性会はサロンのお手伝いもしています。写真は「いきいきサロン」での「コグニダラ体操」の模様

深川社協からのお知らせ

長年にわたり地域福祉に貢献されたことにより表彰されました。おめでとうございます。

平成29年安佐北区社会福祉大会

安佐北区社会福祉協議会会長表彰

福岡 壽(深川六丁目)

(敬称略)

愛のともじび

深川地区社会福祉協議会に対し、福祉事業の活動にお役立て下さいと、次の方々から香典返し他のご厚志をお寄せいただきました。皆様の善意に厚くお礼申し上げます。
(平成二十九年八月~十二月)

- 森川邦彦 深川二丁目
- 山田雄二 深川三丁目
- 桑迫敏江 深川五丁目
- 竹西正雄 深川七丁目
- 竹本孝子 深川二丁目

(受付順 敬称略)

香典・見舞返し・その他皆様の善意の募金をお寄せ下さい。お寄せいただいた募金は深川地区社会福祉事業の活動に役立てさせていただきます。【深川地区社会福祉協議会】